



TITLE:

和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁  
港へ漂着した大形で平たい軽石

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港へ漂着した大形で平たい軽石. 漂着物学会会報「どんぶらこ」 2017, 56: 1-2

ISSUE DATE:

2017-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/220438>

RIGHT:

許諾条件により、墨消しを施している部分があります.; 発行元の許可を得て登録しています.

---

## 和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港へ漂着した 大形で平たい軽石

久保田 信\*

Large and flat pumice washed ashore at the Seto Harbor,  
Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

Shin KUBOTA \*

\* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

\* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and  
Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro,  
Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

[kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp](mailto:kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp)

和歌山県白浜町の海岸に漂着する軽石の大半は子供の握りこぶしよりも小さなものばかりである (久保田 2015)。当該区域に過去十数年の期間中に、初めて大形で平たい軽石が流れ着いたので、希少記録として報告する。

灰色の大形で平たい 1 個の軽石 (長径 25 cm, 最大の厚さ

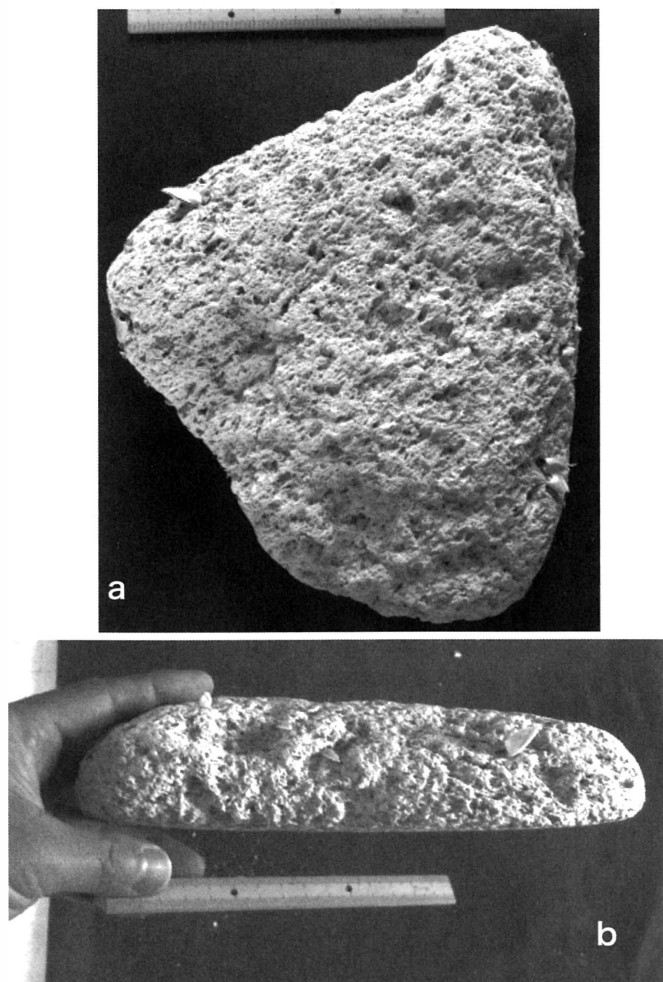


図1 和歌山県白浜町に所在する瀬戸漁港に漂着した大形で平たい軽石

4.5 cm, 重量 630 g) が, 瀬戸漁港に 2016 年に流れ着いた(図 1 a, b)。表面の片側には, 付着動物のカルエボシ (甲殻類) が複数個体見られた。

瀬戸漁港やそのすぐ近くに所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”などへ, これまで漂着した軽石で, 長径 20 cm・重さ 1 kg を超えるものが流れ着いたことはまだない(久保田 2015)。今回の大きな軽石は底面が平たい(この部分にはカルエボシの付着は見られない)ので, 大きさの割には軽い, 人工物ではないだろう。さらに, 日本本土の海岸に漂着する軽石は 150 mm 程度以上のものは稀である(中西 2010)。従って, この軽石は大形で, かつ変わった形である。

#### 引用文献

- 久保田 信. 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所周辺海岸へ漂着した大きな軽石. 漂着物学会会報「どんぶらこ」52: 18.
- 中西弘樹. 2010. 大型の軽石の漂着. 漂着物学会会報「どんぶらこ」33: 7.